

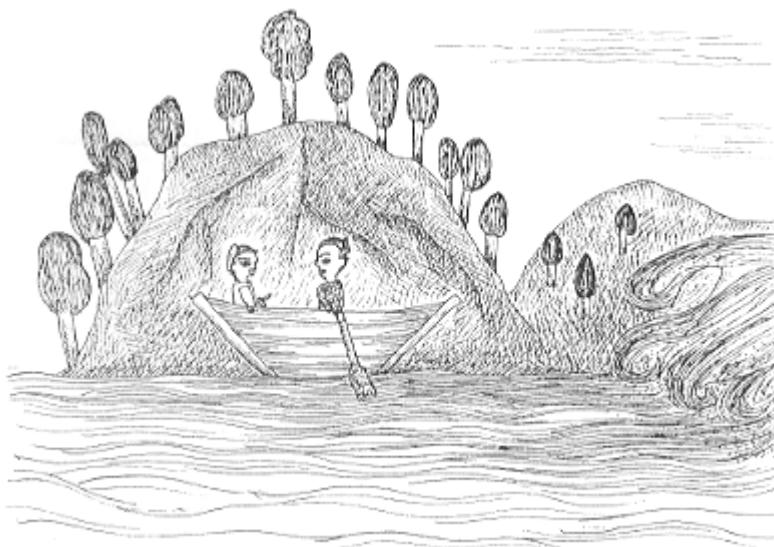
おかの渡し（上氏家町）

昔、ひな川（豊むかしむかし第一集「むかしの川はあばれ川」を参照）の主流は、岡山の南の方から野田の方へ流れていました。

上氏家から野田へ行くには、渡し舟に乗るしか方法がなく、この渡しを「おかの渡し」と言いました。野田から岡山へ柴一つ拾いに行くのも船にたよっていました。

このひな川は、日によつて大変波が荒く、時々船が転ぶくしたそうです。

また、今から約三百年程昔、延宝四年（千六百七十六年）には、ひな川がはんらんして野田は大洪水になり、家財道具が流されたと豊村誌に記載されていますが、今のわたし達には想像もできない話です。



おかやま のま
岡山に登りてみれば 月澄みて

おかの渡しを 帰る世人

このつたは、平安時代の歌人、紀貫之が詠んだ
ものだと伝えられています。

岡山に登つたところ、月が澄んでいて大へん美
しく、下を見れば、柴を刈つた里人がおかの渡し
(ひな川の流れ渡し)を川舟に乗つて楽しそうに
我が家へ帰つていく、その情景を詠んだものです。

おかやま のま
岡村と岡山の由来

上氏家町と下氏家町は、黄、ひな川(日野
川)が岡山の方へ流れていた時代(はつきり
年代は分かりませんが、うんぜと呼ばれる以
前)には、岡村と呼んでいたと言い伝えられ
てきました。

そして、岡山の西南にある小高い山を岡山
と呼んだそうです。

